

Point

高齢者や女性が集まる場を整備することで、「編み組細工」の技術を習得したい人たちを呼び込み、空き家の軒先などを積極的に行い、定住人口を増加させる。

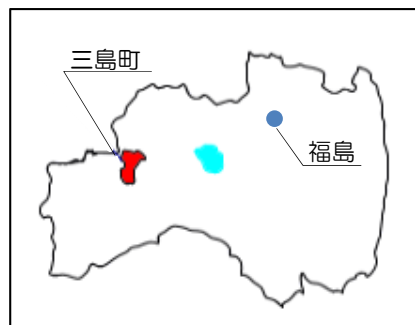
地域の課題

豪雪地帯である奥会津の三島町は、山間部で採取されるヒロロ、山ブドウ、マタタビなどの植物を素材とする「編み組細工」が積雪期の手仕事として伝承されてきた。しかし、近年、農家の減少と兼業の進化、農業従事者の高齢化による担い手不足などの問題が顕在化し、「編み組細工」の技術の継承が円滑に進められない状況となっている。

このため、伝統工芸技術の継承、コミュニティ維持により定住人口を確保することが急務となっている。



位置図



活性化計画

定住人口の増加 人口1,000人当たり2.8人増



編み組細工の技術継承



伝統工芸士による実演

地域の課題を解決するため、高齢者や女性が集まり、「編み組細工」の技術を継承する場を整備。

高齢化により1人暮らし世帯が増える中で皆が集い、技術を習得したいという人たちが当町に足を運ぶようになる。高齢者の技術や知識を後継者に伝えることで伝統工芸技術の継承を行い、コミュニティを維持し、空き家の軒先などを積極的に行い、定住人口を増加させる。

「生活工芸アカデミー事業」による編み組細工の後継者育成を併せて実施することで、交流・定住を促進し、コミュニティの維持・活性化を図っている。

交付金事業内容

事業期間：H28年

事業費：35,000千円（国費17,500千円）

事業目標：定住人口の増加（0人⇒2.8人／1,000人増）

事業主体：三島町

事業内容：地域住民活動促進施設 1棟 149㎡



伝統技術継承施設